

壹' 線の引く部分に適当な漢字または仮名を書きなさい (20%)

第2次大戦の敗戦は、日本の社会の各分野でカチカンの転換をもたらしたが、日本人のシュウキョウセイカツにも大きな変化が生じた。戦前は国家の手厚い保護を受けていた神道も新憲法の下では、他の宗教と同じ扱いに変わり、信仰の対象としての比重は下がっている。しかし、地域の氏神としてケツコンシキや祭りなどの行事を通して住民との結びつきを保っている神社もあるし、歴史的に重要な神社はカンコウメイショとして数多くの参拝客を集めている。神道は教義や信者に対する説得力の点で現代にはそぐわない面もあるが、デントウブンカの一部として日本人の生活に節目を作る役割を果たしている。

貳' 次の文を中国語に翻訳しなさい (60%)

約束というのは法律では契約といわれる。この契約に対する考え方は国によってかなり違うのである。たとえば、本を出版するというような場合、ヨーロッパ、アメリカなどでは、その契約条項は大変細かいものになり、著者と出版社の双方がそれを十分に検討し、納得した上で署名する。ところが日本では本の出版などの場合にそのような契約書を取り交わすことはめったにない。日本で細かい条項のもとに契約をするのは保険や銀行の貸借などであるが、それでさえ、多くの人はいちいち条項をみた上で契約したりはしない。問題が起きたときに読めばいいというので読まないで署名をする。

このような契約に対する態度の違いは、人間に対する考え方が民族によって違うことによる。ヨーロッパやアメリカでは性悪説にたって人間同士は本来信頼できないものとしている。したがって、契約は、本来よくないことをする可能性がある未知の者同士が、この条項だけは守るということから始められたので、契約のもつ意味は非常に大きい。一方、日本では、人間は、お互いに信頼できるという性善説にたっているのもので、そう間違っただけは契約書に書いてあるはずがないと思っているのである。

中国またはロシアの契約観念はヨーロッパ、アメリカのそれとも、日本のそれとも異なる。もちろん、中国やロシアでも契約は重要な意味を持っているが、契約条項そのものは漠然としたものにしておいて、その時その時で解釈する傾向がある。

アラビアでは宗教法と世俗法が一体となっているので、常に「アラー

(背面仍有題目,請繼續作答)

の神の心にかなうならば」という条件が付いてくる。これを怪視すると、思いがけない結果になることもある。契約するもしないも、その解釈もすべてアラブの神の心、すなわち、アラブ人の考えによるということだからである。

同じ契約ということに対しても国によってさまざまな考え方があり、国際的な取引などの場合、相手の考え方をよく理解していないと、損失をこうむったり、時には国際的な摩擦を引き起こしたりすることになる。

参' 次の文を読んだ上、日本語で感想文を書きなさい（20%）

日本国憲法の第21条は、国民の表現の自由を保障しているが、報道機関が主張する報道の自由もこの表現の自由に属している。国民の知る権利を実現する上で報道の自由はきわめて重要な役割を果たしている。そのために、報道関係者はニュースソースを秘密にするなど、いろいろな権利が認められている。しかし、近年、報道各社の激しい競争からセンセーショナルな報道もみられ、これらの権利の乱用が問題となるケースもよくある。